

県外研修

「小中学校の英語教育」「スポーツツーリズム」 「熊本地震からの復興」を視察・研修しました

平成29年6月28日～同30日の日程で、熊本県小国町、大分県日田市、熊本県益城町の視察・研修を。また、最終日の早朝、熊本城の復旧状況を視察しました。
(22Pに関連記事)



委員長 常任教育事務 坂本 あや
さかもと

●小中学校の英語教育（小国町）

小学校5・6年生で「外国語活動」が必修化となったことを受け、先進地の小国町を一昨年（バイオマスの取り組み）に続き訪問しました。

小国町は、小学校6校を統合し1校になったことをきっかけに、小中一貫教育（校舎隣接型）が始まったそうです。

英語教育・ICTの活用・

「ふるさと小国学」を柱に9年間をかけて子どもたちは育てられ、「小学校がしっかりとしないと中学校に迷惑がかかる」「中学校の問題の責任は小学校にもある」との理念で教育全般が行われていました。

また、英会話科を新設し、小学校3年～9年生まで週1時間、年間35時間、1～2年生では朝自習や放課後に英語に慣れる取り組みを実施しアイコンタクトやスマイル等、話す、聞く以外の指導も重要視しているとの事でした。

英語検定への公費負担もあり、児童英検合格者は全国平均を大きく上回る結果となり、9年生という中学3年生においては、3級以上の合格者が

53・57%という実績を出していました。

小国町は、英語教育だけではなく、学習支援員や生活支援員と学校の教職員との協議が活発でした。学年を超えた教科担当制を実施し、小中学校の先生や児童生徒の交流学習が行われることなどで、教育成果を上げているように感じました。



小国町給食センター多目的ホールにて研修を

●熊本地震からの復旧・復興に向けた取り組み（益城町）

平成28年4月14日と16日、震度7を2度受けた町の姿は想像以上でした。

研修をさせていただいたのは、仮設の新庁舎で、住民の仮住まいが一段落して、やっと引っ越しができたという感じでした。

町には、ブルーシートが掛けられたままの住宅や空家になった家屋もありましたが、全壊した家屋はすでに取り壊されて空き地になっていました。庁舎などの公共施設は、

どこも亀裂や崩れ落ちたコンクリート、室内には発災当時のままの状況が残されて、大きく被害を受けた姿が残っていました。

私たちは、益城町の議長と議会事務局長から、これまでの幾つもの取り組みを聞き取り、避難所での対応、り災証明証の発行など、住民の苦しみ、やるせない思いを受け



仮庁舎会議室にての研修の一コマ

取る職員の辛さを聞いたとき、同じ体験をするであろう本町の様子が浮かび、込み上げる思いがありました。

また、当時の議員の行動については、地区に向き住民の怒りを受け止める役割も多かったが、何度も話を聞くことの重要さを話されました。そしてその日に備えておくことの大切さと、住民の声・思いを復興計画に活かすパブリックコメントを大切にしていくなかで、自分たちの地区は自分たちでという動きが起り、現在はまちづくり協議会の設立に向けて動き出しているとのことでした。